

短 獨逸教育話

其二、玉手箱

仁壽堂主人

或女主が家の經濟上に附ていろ／＼ふしやは  
 せな事がありまして其の財産が年々へつてまいり  
 ましたので、或る森の内に居る年老の隠者の所へ  
 行きまして其の有様を話しまして後『私の家では  
 一度もよいことがありませんわなたなにか魔をよ  
 けるものはありますまいか』とたづねました。  
 にく／＼して「白髪しらがみの隠者せんげんは其婦人そのよじんにすこ  
 しおまちなさいと申して次の小さき房へやへ行きまし  
 たしばらくして小さい封じた箱はこを持参もつしまし  
 て『此箱このはこを一年間晝三度夜三度、勝手、藏、馬舎  
 及び家の隅々へ持ちまわるようになさい、さうし  
 ますと、よいことがむいてまいります、そして一

年たちましたら此箱をお返しなさぬと云ひまし  
 た。

女主は其小箱を大層信用たいぢしんようしまして、せいでし  
 て持ちまはりました。次の日、藏へ参りますと下  
 僕が「ビール」の瓶びんを持ちだす所でした、夜になり  
 ましておそくに勝手へまいりましたときには女中  
 たちが氷菓子アイスクリムをこしらへてをりました馬舎へぬけ  
 て行きまされたれば牛は糞ふんだらけのところをりま  
 して、馬は麥むぎの代りに枯草かれくさばかりあてがはれてを  
 りまして此の掃除そうじがしてありません、此様にしま  
 して婦人は毎日／＼不都合ふつごうな事ことをとりしまりまし  
 た。  
 やがて一年たちましたから其小箱をもつて婦人  
 か隠者のところへ行きました喜んで申しまするに  
 は『おかげさまで萬事ばんじよいつどうにまいります

難有ふございました、とうか私にもう一年此の箱を  
かして下さいませ、よほとけつこうなものごを  
さめてありましょふ」と云ひました。

そこで隠者が笑て申しますには『いや、まうな  
りません、しかし此箱の内にをさめてありますの  
はあなたの家にもありますものとす』とて箱を  
開きました、しますと其中には一枚の白紙があり  
ましただけほかになんにもありませんだ。

一口ばなし

或處に權太といつて、まことに悪口の男があり  
ましたがある年の暮途で友達に出遇つて  
いさなり例の悪口を始めました。

權「オイ、貧乏神、この大晦日に不景氣な顔  
して何處へ行くのだ。」

「しますと友達もぬからず  
友「なーに君の處へ行くんだ」

權太はこの返事を聞いて 忌々しいと思つて別  
れましたが 偕てお正月元日になつて廻禮に出  
かけた途中、また彼の友達に遭ひましたが 先達  
ての悪口に懲りましたから 今度は一寸様子をか  
へて。

權「オヤ 福の神さん 今日は何處から」

友「ヤー たつた今君の處から 飛ひ出して來た  
んだ」

謎々

- (一) 鉛筆とかけて
- (二) 上手な自轉車乗とかけて

なんとく